

## 岡山大学における養護実習の現状と課題

石原 昌江（岡山大学教育学部） 野村 梨香（岡山大学教育学部）

本研究では、岡山大学における養護実習の現状とその効果について、実習生及び指導養護教諭に対する調査結果を分析することにより、これからの養護教諭養成における実習のあり方について検討することを目的とした。現状では、健康診断、保健指導、救急処置等の基本的職務については学ぶことができていますが、養護教諭の新たな役割とされる健康相談活動については、子どもの心の状態を探る段階にとどまっている。また、学校保健委員会等の企画運営への参画など、他の教職員との連携のあり方や学校保健活動、養護活動の進め方について十分に学び得ることは、短期間の実習だけでは困難な事項もある。今後の課題としては、「養護実習が養護教諭養成カリキュラム全体を推し進める要の位置にある」ことを明確にし、関係者が協力して、実習の事前・事後における指導内容・方法の改善を図っていくことが必要である。

キーワード：養護実習，養護実習生，実習校，養成機関，実習評価

### はじめに

児童生徒の心身の健康問題が深刻化・複雑化してきている今日、子どもたちの心の健康問題にいち早く気づくことのできる立場にある養護教諭の存在が注目されている。

養護教諭としての資質の向上は、養成段階を含め教員の生涯にわたり絶えず図られるべきものである。今後、これからの養護教諭に求められる資質の向上において、「養護教諭養成カリキュラム全体を推し進めていく要の位置にある」（注1）とされる養護実習は、さらに重要な役割を担うと推測されるとともに、そのあり方が問われる。

そこで、本研究では養護実習前後に、実習生・養護教諭を対象に養護教諭養成課程における養護実習の現状と今後の課題について調査し、望ましい実習のあり方について検討と考察を試みたい。

### 1. 研究目的

現在、岡山大学における3年次の養護実習は、4月または5月に5日間の附属校園（基礎）実習・10月に2週間の協力校（応用）実習とで成り立っている。

本論では、岡山大学における養護実習を研究対象として、平成9年保健体育審議会答申に基づき文部科学省で実施している研修会等であげられている

『養護教諭の職務8項目』を基準にして作成した、具体的活動内容34項目について、実習生及び養護教諭に意識調査を実施し、岡山大学の養護実習の現状とその効果及び今後の課題を明らかにしようと試みた。

### 2. 研究方法

1) 調査対象：①平成12年度に実施された養護実習を履修した、岡山大学教育学部養護教諭養成課程3回生を対象として、附属校園実習事前・事後指導時及び協力校事前・事後指導時の計4回アンケート調査を実施した。②附属校園養護教諭4名、協力校養護教諭12名を対象に、各実習の終了後にアンケート調査を実施した。

2) 調査内容：『養護教諭の職務内容8項目』を基準に、先行研究「養護実習の現状とこれからの課題」（注2）を参考にして作成した、具体的活動内容34項目（資料1）について、実習生に対しては、「特に学びたいこと」、「学ぶことができたこと」（選択式）を、養護教諭に対しては、「特に学ばせたいと考えて取り組まれたこと」、「学ばせることができたこと」（選択式）を調査した。さらに、養護教諭には「養護教諭養成における実習の現状についての意見」（記述式）（資料3）について、あわせて調査を行った。

3) 分析方法: ①実習生アンケート調査を、ア) 附属校園実習の場合、イ) 協力校実習の場合、ウ) 附属校園実習・協力校実習の比較、に分類し分析・検討する。②養護教諭アンケート調査を、ア) 附属校園実習の場合、イ) 協力校実習の場合、ウ) 「全く・あまり学ばせることができなかったこと」に分類し分析・検討をする。

### 3. 結果

#### ①実習生アンケート調査

##### i) 「特に学びたいこと」について

###### ア) 附属校園実習の場合

「特に学びたい」と学習意欲をもっている実習生の割合の最も高い項目は、「日常の救急処置」であった。さらに、「健康診断」に関する諸活動、「学級での保健指導」を「特に学びたい」としていた実習生の割合が高かった。

実習生は、学内の学習では体験できない養護教諭としての実践的・日常的活動を「特に学びたい」としている。(表1)

###### イ) 協力校実習の場合

協力校実習前に、「特に学びたい」と学習意欲をもっている実習生の割合の最も高い項目は、附属校園実習時と同様に、「日常の救急処置」であった。また、協力校実習時の調査では、「心身の健康に問題のある児童生徒への指導」、「健康相談活動」を「特に学びたい」とした実習生の割合が高かった。これらの項目について、附属校園実習後の調査で「学ぶことができた」とした実習生の割合は、それぞれ、42.9%、50.0%であった。(表1)

###### ウ) 附属校園実習・協力校実習の比較

表2からわかるように、附属校園実習前の調査で「特に学びたい」とした実習生の割合に対し、協力校実習前の調査で「特に学びたい」とした実習生の割合の増加率の大きい項目は、「保健だよりの作成」、「保健室の経営計画の立案」であった。協力校実習前の「特に学びたいこと」に関する調査では、附属校園実習後の「学ぶことができたこと」に関する調査で、「学ぶことができた」とする実習生の割合が低い項目において、「特に学びたい」とする実習生の割合が増加していた。

##### ii) 「学ぶことができたこと」について

###### ア) 附属校園実習の場合

附属校園実習後の調査で、「学ぶことができた」としている実習生の割合の最も高い項目は、「健康診断」に関する諸活動であった。次いで「学級での保健指導」であった。(表1) 実習前の調査で、「特に学びたい」とした実習生の割合の最も高かった「日常の救急処置」を「学ぶことができた」とした実習生は、85.7%であった。

附属校園実習において、実習生は、「特に学びたい」とした養護教諭としての実践的・日常的活動項目を「学ぶことができた」ことがわかる。

###### イ) 協力校実習の場合

協力校実習後の調査で「学ぶことができた」とした実習生の割合の最も高かった項目は、「日常の救急処置」、「学級での保健指導」であり、その割合は100%であった。

しかし、協力校実習の事前調査で「特に学びたい」としていた実習生の多かった「健康相談活動」を「学ぶことができた」とした実習生は、31.6%と、僅かであった。

###### ウ) 附属校園実習・協力校実習の比較

表2からわかるように、附属校園実習後の調査で「学ぶことができた」とした実習生の割合に対し、協力校実習で「学ぶことができた」とした実習生の割合の増加率の大きい項目は、「伝染病による出席停止に関する事項」、「学校保健委員会等への企画運営への参画」であった。(表2)

表1 実習生「特に学びたいこと」「学ぶことができたこと」(上位項目(n)は有効回答者数)

順位	附属校園実習(n=40) 「特に学びたいこと」	協力校実習(n=41) 「特に学びたいこと」	附属校園実習(n=42) 「学ぶことができたこと」	協力校実習(n=38) 「学ぶことができたこと」
1	・ 日常の救急処置 35(87. 5%)	・ 日常の救急処置 37(90. 2%)	・ 健康診断の準備・実施 41(97. 6%)	・ 学級での保健指導、指導案・教材作り ・ 日常の救急処置 38(100. 0%)
2	・ 健康診断の準備・実施 32(80. 0%)	・ 身の健康に問題のある児童生徒への指導 ・ 緊急時の救急処置、救急体制 ・ 健康相談活動 34(82. 9%)	・ 学級での保健指導、指導案・教材作り 40(95. 2%)	・ 健康診断の準備・実施 ・ 給食指導による健康生活の実践状況の把握 37( 97. 4%)
3	・ 学級での保健指導、指導案・教材作り ・ 健康診断の事後措置 30(75. 0%)	・ 保健室来室者カードの記入による保健室で捉えた疾病異常の把握 ・ 不安や悩みなどの心の健康状態の把握 33(80. 5%)	・ 健康診断の事後措置 39(92. 9%)	・ 健康診断時の事前指導 ・ 健康診断の事後措置 36( 94. 7%)

表2 附属校園実習・協力校実習で「特に学びたいこと」「学ぶことができたこと」及び「特に学びたい」「学ぶことができた」とする実習生の増加率(上位項目)

「特に学びたいこと」「特に学びたい」とする実習生の増加率	「学ぶことができた」とする実習生の割合	順位	「学ぶことができたこと」「学ぶことができた」とする実習生の増加率	「特に学びたい」とする実習生の割合
・ 保健だよりの作成 40. 7%	31. 0%	1	・ 伝染病による出席停止に関する事項 61. 6%	43. 9%
・ 保健室の経営計画の立案 38. 6%	23. 8%	2	・ 学校保健委員会等の企画運営への参画 50. 8%	48. 8%
・ 一般教職員の行う保健活動への協力 35. 7%	38. 1%	3	・ 給食指導による健康生活の実践状況の把握 45. 0%	43. 9%
・ 伝染病による出席停止に関する事項 33. 9%	9. 5%	4	・ 保健室の経営計画の立案 44. 6%	56. 1%
・ 不安や悩みなどの心の健康状態の把握 ・ 心身の健康に問題のある児童生徒への指導 ・ 疾病異常を持つ児童生徒への指導 28. 0%	52. 4% 42. 9% 35. 7%	5	・ 緊急時の救急処置、救急体制 43. 9%	82. 9%

## ②養護教諭アンケート調査

i) 「特に学ばせたいと考えて取り組んだこと」  
について

## ア) 附属校園実習の場合

附属4校園の養護教諭が「特に学ばせたい」として共通してあげた活動項目は、「健康生活実践の把握・疾病状態の把握・心の健康状態の把握」といった子どもたちの実態の把握や、「健康診断」に関する諸活動、「学級での保健指導」、「日常の救急処置」といった養護教諭としての実践的活動であった。(表3)

## イ) 協力校実習の場合

協力校養護教諭が「特に学ばせたいと考えて取り組んだこと」とした項目は、「日常の救急処置」や「学級での保健指導」、朝の健康観察・安全指導による子どもたちの健康生活の実践状況の把握、保健室来室状況の把握といった「学校保健情報の把握」についてであった。(表3)

ii) 「学ばせることができたこと」について

## ア) 附属校園実習の場合

附属4校園養護教諭が共通して、「学ばせることができた」としている項目は、清掃指導・安全指導など子どもたちと実際に関わるなかでの「子どもたちの健康生活の実践状況の把握」や、「健康診断」に関する諸活動、「学級での保健指導」、「日常の救急処置」といった養護教諭としての実践的活動であった。「健康診断」に関する諸活動は、附属校園実習は、健康診断時期である4月または5月に実施されるので、「学ばせることができたこと」としてあげられていた。(表3)

## イ) 協力校実習の場合

協力校の養護教諭12名が共通して、「学ばせることができた」としている項目は、「保健室来室者カードの記入や朝の健康観察・給食指導・清掃指導による子どもたちの状況の把握」や「学級での保健指導」、「日常の救急処置」であった。

しかし、「特に学ばせたい」としていた養護教諭の多かった、「不安や悩みなどの心の健康状態の把握」について「学ばせることができた」とした養護教諭は、附属校園50.0%、協力校41.7%と少なかった。

た。

また、協力校実習で、「特に学びたい」とした実習生割合の高かった「健康相談活動」を「学ばせることができた」とした養護教諭は、41.7%であった。  
(表3)

ウ)「全く・あまり

学ばせることができなかったこと」について  
表4からわかるように、附属校園・協力校いずれ

の実習時とも、「全く・あまり学ばせることができなかった」とされた項目は、「照度・騒音検査」、「学校保健委員会等の企画運営への参画」であった。

その主な理由は、「照度・騒音検査」は、「日常的に実施していない(実施する必要がない)」、「学内の授業でも学ぶことできる」、とされていた。また、「学校保健委員会等の企画運営への参画」は、「実習期間中に学校保健委員会が実施されず、その様子を伝えるだけに終わった」、とされていた。(資料2参照)

表3 養護教諭「特に学ばせたいと考えて取り組んだこと」「学ばせることができたこと(nは有効回答者数)

附属校園実習(n=4) 「特に学ばせたいこと」	協力校実習(n=12) 「特に学ばせたいこと」	附属校園実習(n=4) 「学ばせることができたこと」	協力校実習(n=12) 「学ばせることができたこと」
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全指導による健康生活の実践状況の把握</li> <li>健室入室者カードの集計・整理による保健室で捉えた</li> <li>疾病の状態の把握</li> <li>不安や悩みなどの心の健康状態の把握</li> <li>健康診断の事後処置に関する指導</li> <li>学級での保健指導、指導案・教材づくり</li> <li>健康診断時の事前指導</li> <li>日常の救急処置</li> <li>健康診断の準備・実施</li> <li>健康診断の事後措置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全指導による健康生活の実践状況の把握</li> <li>朝の健康観察による健康生活の実践状況の把握</li> <li>保健室入室者カードの記入による保健室で捉えた疾病の状態の把握</li> <li>不安や悩みなどの心の健康状態の把握</li> <li>学級での保健指導、指導案・教材づくり</li> <li>日常の救急処置</li> <li>緊急時の救急処置、救急体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全指導による健康生活の実践状況の把握</li> <li>清掃指導による健康生活の実践状況の把握</li> <li>健康診断の事後処置に関する指導</li> <li>健康診断時の事前指導</li> <li>学級での保健指導、指導案・教材づくり</li> <li>日常の救急処置</li> <li>健康診断の準備・実施</li> <li>健康診断の事後措置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全指導による健康生活の実践状況の把握</li> <li>朝の健康観察による健康生活の実践状況の把握</li> <li>給食指導による健康生活の実践状況の把握</li> <li>保健室入室者カードの記入による保健室で捉えた疾病の状態の把握</li> <li>学級での保健指導、指導案・教材づくり</li> <li>日常の救急処置</li> </ul>

表4 養護教諭「全く・あまり学ばせることができなかったこと」

附属校園実習(n=4)	協力校実習(n=12)
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校保健安全計画の立案</li> <li>保健だよりの作成</li> <li>健康相談の準備と事後措置</li> <li>照度検査</li> <li>騒音検査</li> <li>校内巡視と事後の指導</li> <li>学校保健委員等の企画運営への参画</li> <li>伝染病による出席停止に関する事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>騒音検査</li> <li>照度検査</li> <li>学校保健委員等の企画運営への参画</li> <li>一般教員の行う保健学習や保健指導に対する援助と授業協力</li> <li>環境衛生検査の結果の集計</li> <li>歯磨き指導</li> <li>校内巡視と事後の指導</li> </ul>

※ 表3の「特に…」は、附属校園4名、協力校8名以上が、「学ばせること…」は、附属校園4名、協力校12名が共通してあげた項目である。

※ 表4の「全く・あまり学ばせること…」は、附属校園3名以上、協力校10名以上があげた項目である。

#### 4. 考察

附属校園実習・協力校実習とも、「日常の救急処置」を「特に学びたい」とした実習生の割合が最も高かった。さらに、附属校園実習では、「健康診断」に関する諸活動、協力校実習では、「不安や悩みなどの心の健康状態の把握」、「健康問題のある児童生徒

への指導」、「健康相談活動」をあげた実習生の割合が高かった。

「学ぶことができた」としている実習生の多い項目は、いずれの実習とも、「健康診断」に関する諸活動、「日常の救急処置」、「学級での保健指導」であった。

これらのことより、附属校園及び協力校実習で、実習生は、養護教諭の「専門的能力の基盤となっている」(注3)看護能力、さらには、養護教諭の新たな役割として求められている精神的健康問題への個別的対応、健康相談活動を「特に学びたい」としている。そして、実際に実習では、「日常の救急処置」、「学級での保健指導」を「特に学ぶことができた」としているが、子どもの心の状態を把握し、健康相談活動を実施するまでにはいたっていない。

5日間及び2週間という短期間では、子どもたちとの信頼関係を十分に築くことは困難であり、子どもの心の状態を探る段階に終わりがちであり、把握し指導するまでは期待し難い。

事前の取り組み、そして、実習で習得した養護教諭としての基本的知識・技能、子どもたちの実態に関する理解を整理・確認し、自らの課題を継続に学び、深めていくなど、事後の取り組みが肝要であるといえる。

表2からわかるように、附属校園実習で「学ぶことができた」とする実習生の割合の低い項目において、「特に学びたい」とする実習生が増加している。

このことより、附属校園実習の実践的体験は学習意欲を高めさせ、実際の学校現場を想定した具体的な学習課題の設定を可能にし、実習生は目的意識をもって協力校実習に臨む積極的な態度と能力(自己教育力)が形成されているといえる。

養護教諭が「特に学ばせたいと考えて取り組んだこと」では、附属校園・協力校養護教諭とも、「日常の救急処置」、「学級での保健指導、指導案・教材作り」、また、実際に子どもたちと関わるなかでの「不安や悩みなどの心の健康状態の把握」、「子どもたちの健康生活の実践状況の把握」についてあげていた。さらに、附属校園実習では、「健康診断」に関する諸活動があげられていた。

また、養護教諭が共通して、「学ばせることができた」としている項目は、「安全指導による健康生活の実践状況の把握」、「学級での保健指導」、「日常の救急処置」であった。「健康診断」に関する諸活動は附属校園実習のみ、「朝の健康観察・給食指導による子どもたちの健康生活の実践状況の把握」は協力校実習のみにあげられていた。

しかし、いずれの実習とも、「不安や悩みなどの心の健康状態の把握」を「学ばせることができた」とした養護教諭は少なかった。

一方、2回の実習を通して、「全く・あまり学ば

せることができなかった」とされた項目は、「照度・騒音検査」、「学校保健委員会等の企画運営への参画」であった。

これらのことより、附属校園・協力校実習の養護教諭は、「健康診断、保健指導、救急処置などの従来の職務」(注4)を中心に指導し、実習生に、子どもたちの心の健康問題を把握させたいとしていることがうかがい知れる。

実習では、「健康診断」、「日常の救急処置」、「学級での保健指導」を「学ばせることができた」としている。しかし、子どもの心の状態を探る段階に留まっており、「養護教諭の新たな役割とされる」(注4)健康相談活動までは、短期間の実習では、困難であるとしている。

また、「実習は、教職員との連携のあり方について学ぶ好機会である」(注5)とされているが、5日間及び2週間といった短期間では、養護活動は、「学校組織の中で、他教師と共通理解・協力・連携することによって行われるものである」(注6)という認識を十分に深めることはできない。

このようなことから、資料3にあるように、実習後も、継続的に実習校に通い、実習中にみつけた課題を主体的に学んでいくなかで、子どもたちに対する理解を深め、他教師との連携や、他の教育活動との連携を保ちながらの学校保健活動や養護活動の進め方を学ぶことができる。養護教諭としての認識をより深めることができると考えられる。「事後学習があって、はじめて実習が生き、実習中の学びが定着する」(注7)とされているように、実習後の積極的かつ継続的な取り組みが必要であるといえる。

## 5. まとめと今後の課題

養護実習の現状について以下のことが指摘できる。

- ① 養護実習では、健康診断、保健指導、救急処置などの従来の職務を学ぶことができています。
- ② 5日間及び2週間という短期間の実習では、子どもの心の状態を探る段階に留まっており、養護教諭の新たな役割とされる健康相談活動を学び得ることは、困難である。
- ③ 同様に短期間の実習だけでは、学校保健委員会等の企画運営への参画など、他の教職員との連携のあり方や、学校保健活動・養護活動の進め方を学ぶことは期待し難い。

以上のことから、今後の課題として、以下の諸点を提示できる。

事前の取り組みとして、養成機関と実習校が、定期的に連絡協議の場を持ち、実習内容・方法を検討し、共通理解をもって、実習指導にあたることが望まれる。実習生は、早い時期に自主的に実習校に足を運び、実習校の実態・子どもたちの実態を知り、養護教諭との共通認識のもと、実習に臨むようにする。

実習中の取り組みとして、実習生は目的意識を持ち、自ら学び取ろうとする積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。そのためには、実習校におけるオリエンテーションの内容・方法等についても養成機関と実習校が協議の場を持ち、実習生が各実習校の教育活動を理解し、課題意識を養うことができるよう、そのあり方を検討することが望まれる。

事後の取り組みとして、継続的に実習校に通うなど、実習中に得た探求課題を主体的に学んでいくことが重要である。また、実習を終えた学生が、これから実習に臨む後輩に対し、自らの実習体験を報告し、それをもとにして、互いに質疑応答するような交流の場を設けることも必要である。

#### おわりに

平成9年保健体育審議会答申において「養護教諭の新たな役割」「求められる資質」が示された。

養成段階では、これからの養護教諭に求められる能力の基礎・基盤を培うことが求められている。

その中で、養護実習は、「養護教諭養成カリキュラム全体を推し進める要の位置にある」(注1)とされている。

実習は、事前・事後の実習生の積極的・主体的な取り組みがあつて、実習が生き、実習での学びが定着する。実習生が「自己成長していける力を培うこ

と」(注8)により、養護実習は、養護教諭養成カリキュラムにおいて、「要」の役割を果たしていくことが可能となる。

今後、事後の取り組みについても追跡調査を行い、養成教育全体の中での養護実習のより効果的なあり方について、継続的な研究を進めていきたい。

#### (注) 引用文献

- (1) 日本学校保健学会「養護教諭の養成教育のあり方」共同研究班、『これからの養護教諭の教育』、p.96、東山書房、1990年
- (2) 芝勢朋子他、「養護実習の現状とこれからの課題」、岡山大学教育学部養護教育教室「卒業論文・修士論文 抄録集」、2000年
- (3) 三木とみ子編、『養護概説』、p.31、ぎょうせい、1999年
- (4) 文部省、保健体育審議会答申「生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興のあり方について」、1997年
- (5) 飯田澄美子他編、『養護活動の基礎』、p.191、家政教育社、1982年
- (6) 前掲書5) p.192
- (7) 岸光城他編、『教育実習』、p.54、ミネルヴァ書房、1994年
- (8) 盛昭子「自己成長していける養護教諭を育てるためにー養成教育における養護実習に焦点化してー」、日本学校保健学会講演集、pp.124-125、2000年

(平成12年12月15日原稿受理)

Title: Current Evaluation and Problems of Training Practice for School Nurse-Teachers in Okayama University

Masae ISHIHARA (Faculty of Education, Okayama University)

Rika NOMURA (Faculty of Education, Okayama University)

Abstract: This study is aimed to consider the problems of training practice for school nurse-teachers by analyzing the research about the current evaluation and effect of the training in Okayama University.

In the present situation it is possible to learn fundamental duties such as physical examination and health guidance. However some issues which include cooperation with other teaching staff, participation in management of the school health committee and organizing school health activities are still left to argue.

Pre- and post-guiding methods for training practice also needs to be improved based on the idea that training practice is at the core of the training curriculum of school nurse-teachers.

Keywords: School Nurse-Teacher Training Practice, School Nurse-Teacher students, Schools for Training Practice, Training Institutions, Practicing Evaluation

資料1 アンケート調査項目

- 1 学校保健情報の把握に関すること
  - ① 学校保健安全計画の立案
  - ② 健康生活の実践状況
    - ・朝の健康観察
    - ・給食指導
    - ・清掃指導
    - ・安全指導
  - ③ 保健室で捉えた疾病の状態
    - ・保健室来室者カードの記入
    - ・保健室来室者カードの集計、整理
  - ④ 不安や悩みなどの心の健康状態
- 2 保健指導・保健学習及び健康相談活動（ヘルスカウンセリング）に関すること  
〔個人・集団対象〕
  - ① 健康診断の事後処置に関する指導
  - ② 心身の健康に問題のある児童生徒への指導
  - ③ 健康相談活動
  - ④ 疾病異常を持つ児童生徒への指導
  - ⑤ 健康生活の実践に問題のある児童生徒への指導
    - ・手洗い指導
    - ・歯磨き指導  
〔集団対象〕
  - ① 学級での保健指導 指導案、教材作り
  - ② 健康診断時の事前指導
  - ③ 保健だよりの作成
- 3 救急処置及び救急体制の整備に関すること
  - ① 日常の救急処置
  - ② 緊急時の救急処置、救急体制
- 4 健康診断及び学校医の行う健康相談に関すること
  - ① 健康診断の準備・実施
  - ② 健康診断の事後措置
  - ③ 健康相談の準備と事後措置
- 5 学校環境衛生に関すること
  - ① 環境衛生検査
    - ・水質検査
    - ・照度測定
    - ・騒音検査
  - ② 校内巡視と事後の指導
- 6 学校保健に関する各種計画・活動及びそれらの運営への参画等に関すること
  - ① 一般教職員の行う保健活動への協力
  - ② 学校保健委員会等の企画運営への参画
  - ③ 一般教員が行う保健学習や保健指導に対する資料の提供等の援助と授業協力
- 7 伝染病の予防に関すること
  - ① 伝染病による出席停止に関する事項
- 8 保健室の運営に関すること
  - ① 保健室の経営計画の立案
  - ② 保健室整備 薬品、衛生材料の整備・保管
  - ③ 保健に関する諸情報の整備、活用、保管
    - ・健康観察の集計
    - ・環境衛生検査の結果の集計



## 資料2 「全く・あまり学ばせることができなかったこと」とその主な理由

(nは有効回答者数)

項目 (n=12)	主な理由
学校保健計画の立案 7 (66.7%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短期間なので無理である。</li> <li>・ 実習期間が立案の時期ではなかったから。</li> </ul>
保健室来室者カードの 集計・整理による 疾病の状態の把握 7 (66.7%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集計をしているのは見てもらったが、実際に、集計をしてはもらわなかった。(時間的なもの)</li> <li>・ 日々、集計しているのではなく、月ごとに集計しており、実習期間はその集計時期ではなかった。</li> </ul>
不安や悩みなどの 心の健康状態の把握 5 (41.7%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2週間では子どもの理解は無理である。</li> <li>・ 時間的に無理であり、学ぶ段階ではなく、説明だけで終わった。</li> </ul>
心身の健康問題に問題の ある児童生徒への指導 健康相談活動 7 (66.7%) 疾病異常を持つ 児童生徒への指導 5 (41.7%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肥満児への指導を希望したが、呼び出して指導することの困難さと、実習生の準備も無理と思われた。</li> <li>・ 短期間では子どもの心の状態を探る段階に終わり、把握し、指導する段階までは不可能である。</li> <li>・ 2週間では、実習生と子どもたちとの間に悩みを打ち明けるまでの信頼関係を築くのは困難である。</li> </ul>
健康相談の準備と事後措置 7 (66.7%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習期間中には実施しなかった。</li> <li>・ 学校医と話す時間を設けると理解を深めることができるが、日常的に学校医との連携が十分に図れていなかった為、その機会を設けることができなかった。</li> </ul>
照度検査 10 (83.3%) 騒音検査 11 (91.7%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的に実施していない。</li> <li>・ 実習以外でも学ぶことができるから。</li> </ul>
校内巡視と事後の指導 9 (75.0%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他のこと(保健指導)等でせいっぱいで校内巡視を行う時間的ゆとりがなかった。</li> </ul>
一般教職員の行う保健活動 への協力 8 (66.7%) 学校保健委員会等の企画・ 運営への参画 11 (91.7%) 一般教員が行う保健学習や 保健活動への協力 10 (83.3%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1時間の学級での保健指導等でせいっぱいで一般教員の行う保健活動への協力等をするゆとりがなかった。</li> <li>・ 短期間の実習中のみで学ぶことは無理である。</li> <li>・ 学校保健委員会は実習期間中にはなく、その様子を話すことしかできなかった。</li> </ul>
保健室経営計画の立案 8 (66.7%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立案にはある程度の経験が必要であり、養成段階での指導は難しい。</li> <li>・ 計画を立案していない。</li> </ul>
健康観察の集計 7 (58.3%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間的なゆとりがないため。</li> <li>・ 日常的に行っていない。(時期が違った。)</li> </ul>
環境衛生検査の結果の集計 11 (91.7%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の学校現場では実践する余裕のない項目である。</li> <li>・ 日常的に環境衛生検査を実施していない。</li> </ul>

資料3 『養護教諭養成における実習の現状』について

i)『ヘルスカウンセリング（健康相談活動）について指導上特に配慮したこと』
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちとしっかり関わらせ、対応の仕方、よかった点、気をつけたほうがよい点などを話し合った。</li> <li>保健室を訪れる子どもたちの様子、養護教諭との関わりの様子を観察させ、子どもたちへの対応を学ばせた。</li> <li>保健室来室者カード等の記録から、子どもたちの訴えの現状を学ばせた。</li> <li>保健室だけではなく、教室その他で子どもたちとは、どんなに関わってもらい、対応の仕方を考えさせた。</li> <li>配当学級の子どものなかで、問題を抱えている子どもと、特に関わりあいをもたせるようにした。</li> <li>子どもの背負っているもの（家族歴、生育歴など）を大切にして、子どもと関わっていくように指導した。</li> <li>小規模校のため、保健室来室者も少なく、思うような指導ができなかった。様々な子どもが来室する学校が実習校として望ましいのではないかと思う。</li> </ul>
ii)『学校全体・他教師との連携・共通理解について指導上特に配慮したこと』
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの発達段階を理解する為に、低・中・高学年、さらに、障害児学級への配属をローテーションで実施した。他教師の全面的協力が得られたと思っている。</li> <li>学級配属したり、他の学校職員から、それぞれ話をきくなど、できるだけ、学校全体に関わることを取り入れた。</li> <li>山の学校に参加してもらい、学校行事における養護教諭の役割、学級担任の指導の様子、連携の回り方等を学んでもらった。</li> <li>学級、担任のことを理解できるようにできるだけ教育実習にちかい形で配当学級での時間を各担任の先生にお願いした。実習記録も、養護教諭の前に目を通してもらい赤字を一言入れてもらうようお願いした。</li> </ul>
iii)『今後（実習後）学んで欲しいこと』
<ul style="list-style-type: none"> <li>救急処置が重要。学校現場の実例から実際に近い内容を想定したロールプレイングなどを行い（実際に体験した事例を再現してみる）、基本的な看護能力を身につけて欲しい。</li> <li>子どもの発達段階を学んだことを生かし、保健指導・保健学習の実践力を身につけて欲しい。</li> <li>健康相談活動に役立てることができるよう、子どもの発達心理学を勉強しておく。</li> <li>日頃の人間関係を大事にできる豊かな人間性を身につけて欲しい。</li> <li>実習後も可能であれば実習校または附属校園に継続的に通い、実習だけでは十分に学ぶことができなかったことを主体的に学んで欲しい。子どもたちの実態、他教師との連携の様子など短期間では学ぶことができなかったことなど、学校現場の実態をより学ぶことができる。</li> <li>この実習を通して学んだことが、大学にもどって、どう生かされていくのか知りたい。学校の中の一場面しか体験していないけれど、自分が就職して、ひとりで任された場面を想定した学習（問題解決学習）が必要である。</li> </ul>
iv)『実習に対する意見・感想、実習生に伝えておきたいこと』
<ul style="list-style-type: none"> <li>単発の実習だけではなく、事前・事後も関わりがもてるようなものにすれば、実習が生きてくるのではないだろうか。もっと、実習内容について勉強を深めてから実習に臨んで欲しいと思う。</li> <li>課題意識をもって実習に来てほしい。</li> <li>1時間の授業をしたが、もっと積極的に自分でやるという意識をもって取り組んで欲しい。1時間、授業に必要なものは自分で準備する。仕方なくやっているという態度では、受け入れる方も困惑してしまう。</li> <li>自らが問題意識をもち、自ら学び取ろうという姿勢を求めた。実習生は、協力し合い、期待通り実習をこなした。教官の熱意も伝わり実習生の頑張りを一層ひきだしたと思われる。</li> <li>学校側からの計画だけではなく、何かこれができれば…というものをもって臨んで欲しい。事前の打ち合わせの時に教えてくれれば、計画に取り入れることもできることもある。（無理な時もあるが）</li> <li>2週間という短期間に1時間の保健指導、保健学習の指導は無理なような気がする。これを希望されるなら、もっと具体的にかんりの実践、実習を積んでから来て欲しい。これを実習校ではじめからすると、2週間でほとんど授業のために費やすことになる。</li> <li>学校と実習生との打ち合わせ会をもっと事前にしてほしい。（実習計画を早ければ8月の会議で）</li> </ul>